

ことらいふ東寺



空き家になっていた隣り合う京町家を一体的に改修してできた「ことらいふ東寺」が竣工してからもう直ぐ 1 年を迎えます。ここには「居場所よっとーくりやす」の活動拠点と「グループリビングことらいふ東寺」があります。

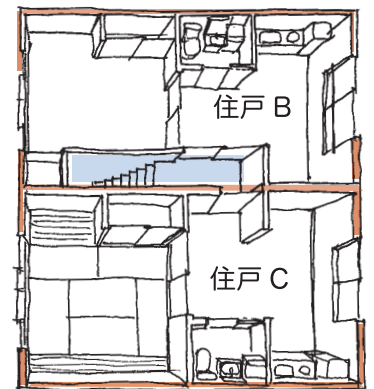
南北の猪熊通りに面する 2 階建ての町家と、直行する路地に面する平屋建てを一体敷地として活用するために、間を石畳の路地のような中庭としてしつらえました。軒先の縁側に腰掛けて樹々や草花を楽しめるコモンスペースです。

1 階入り口にある「居場所よっとーくりやす」は、増田隆子さん二三夫さん夫妻が 2008 年から自宅を開放して続けてこられた地域活動の新たな拠点です。現在スタッフは 30 人を超え、ちょっとお助け隊、生協の個人引取り、まちなこ活動、バザー、各種サークル活動などこの地域になくてはならない存在になっています。コロナ禍で思うように集まれない状況もありましたが工夫をしながらさらにその活動を広げています。町内との連携が深まり地藏盆の会場として利用されたり、月に 1 度のイベントが催されたりしています。また、毎月第 2 土曜日には「よっとーくりやす祭り」が開催され、バザーや喫茶、包丁研ぎなどに加えてよろず相談コーナーが生まれています。地域包括センターはじめ専門家の参加もあり血压測定などもしながらいろんな相談が気軽にできます。私たちも住まいの相談コーナーを受け持っています。

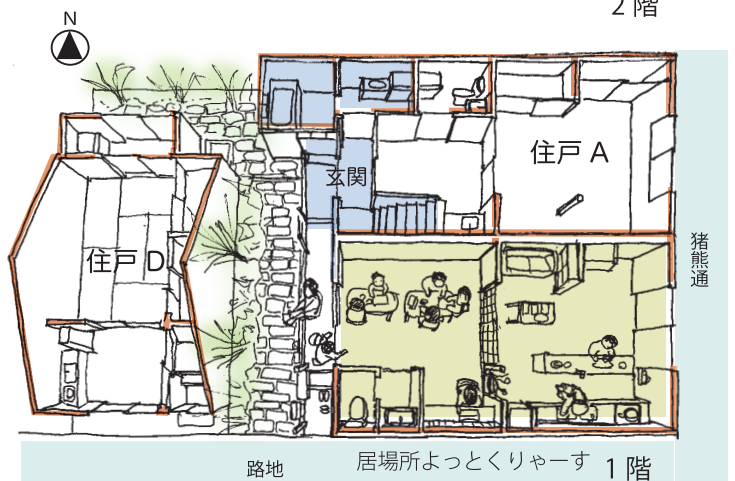
高齢になっても安心して暮らせる住まい環境を作りたいと始めた「集まってつくる安心の住まい研究会」から生まれた「ことらいふ嵯峨野」に続く二つ目のグループリビングの事例となります。「嵯峨野」は大きなお家型で共用部（居間・食堂、水回り、庭など）と個室から成り立っているのに対して「東寺」は各住戸内にキッチン水回りを設えて独立性を高め、お風呂だけを共用にしています。また共用の居間・食堂は無く、サロンにその機能を重ね合わせています。

どちらも建物を所有する家主さんと居住者の中で賃貸契約を結び、研究会から生まれた（株）ことらいふが運営や管理に関わっています。

グループリビングには現在三人が入居されています。80 代の男性 Y さんは平屋の住人、町内老人会の会長も引き受け元気に暮らしています。80 代女性 K さんは、山口から引っ越してこられ、地域性の違いに少しずつ慣れて京都に住む娘さんのサポートも得ながら自由に暮らしています。20 代の S さんは、少し知的障害があり夢見ていた自立した暮らしをここで実現しています。毎日元気に働きに出かけ、週末のサロンでの夕食会を何より楽しみにしています。



2 階



路地 居場所よっとーくりやす 1 階



建物の形状を元の骨格に戻つつ耐震補強し、見違えるように生まれ変わりました。



竹小舞を編み、藁スサを練った土壁をつけます。



建屋の傾きを戻し、傷んだ梁や柱を取り替え補強の壁を増やしていきます。



各住戸とも二間続き 土壁や古建具を使用し落ち着いた雰囲気。トイレ、洗面、キッチンがついています。お風呂は共同で使用



中庭には市電の敷石を並べ、ゆっくり成長するアオダモや下草が植えられました。

【改修の内容】

猪熊通りに面した2階建ての家も路地に面した平屋も昭和12年ごろに借家として建てられ、構造材もひよわで、屋根も土壁もかなり傷んでいました。裏庭には水回りや小部屋などが無秩序に建て増されていました。本改修では京都市の「京町家の耐震診断士派遣事業」を用いて耐震診断と耐震改修基本計画を行い、建物を元の骨格に戻しながら間取りを整え新たな壁や柱を増やしながらか補強しています。京町家の工法を熟知する職人の技と知恵があってこそ再生された建物です。またこのプロジェクトに賛同し多くの職人さんが力を発揮してくれました。

<概要>

場所	京都市南区
竣工	2022年5月
面積	総敷地面積：約150㎡(45坪) 総延床面積：約197㎡(60坪)
耐震計画	前川建築事務所
施工	建築・機械設備：風・住・研 電気設備：Kセービング 木製建具：山田木工 造園：庭仁



月に一度の「よっーくりやす祭り」軒先に机と椅子を出して「からだ」と「こころ」と「すまい」の相談コーナー。猪熊通にバザーや包丁研ぎなどが立ちます。



1階サロンは各種イベント、カルチャー教室、食事会などさまざまな利用されています。

このプロジェクトは、国交省の補助金「人生100年時代を支える住まい環境整備モデル事業」(令和3年度)を受けています。多様な世帯が地域で安心して暮らせる住環境整備に貢献するプロジェクトと認められたものです。

通りに活気が生まれ、普段着で暮らせる心地よさや安心感が感じられます。

そして、次なるプロジェクトが始まりつつあります。この近所の空き家を改修し、同じ補助金を活用して、いろんな生きづらさを抱えた人たちが互いに協力しながら暮らし働く場をつくる「シェアハウス」の構想です。

こうして少しずつ地域が網の目のようにつながって安心して暮らしていけるまちになっていくことを願っています。